



連載コラム



みずき野と その周辺の 植物と昆虫



第2回 スミレの仲間



本吉總男

みずき野とその周辺の植物と昆虫

(2) スミレの仲間

下に述べる6種のスミレがみずき野町内で見られます。守谷市内にはこれらのほかにニオイタチツボスミレ、アオイスミレ、ヒカゲスミレ、ケマルバスミレ、アカネスミレ、コスミレが記録されていますが(「もりやの自然史」平成12年 守谷町教育委員会発行)、これらはみずき野周辺では見当たりません。

(1) スミレ

一般にスミレという名称は、スミレ属の総称として使われますが、「スミレ」という名のスミレがあります。「これ、何というスミレ?」「スミレ」「だから何スミレ?」「ただのスミレ」といささか困ってしまうスミレです。「テントウムシ」という名のテントウムシ、「アゲハチョウ」という名のアゲハチョウもいますが、それらには「ナミテントウ」、「ナミアゲハ」という別名があるので便利です。もっとも「ナミ」が付くと、寿司ではありませんが、格が下がったような感じがします。幸か不幸か「スミレ」には「ナミスミレ」という別名はありません。



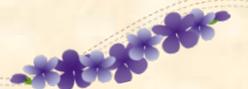
路上のコンクリートの継ぎ目に生えるスミレ

このスミレは意外なことに、道路のコンクリートの割れ目や継ぎ目のわずかな土の部分に好んで生えています。みずき野の町内の道路でも、そんなスミレをよく見かけます。わが家の庭にスミレを植えたことがありましたが、すぐになくなりました。多分、道路が恋しくて、出ていったのだらうと思っています。

北原白秋に、つぎのような歌があります。

堇(すみれ)咲く 春は夢殿 日おもてを

石段(いしきだ)の目に 乾く埴土(はにつち)





また白秋の「法隆寺」という童謡は、

「夢殿の 石段に、石段に、すみれが咲いて

をりました、をりました。(以下略)」と歌っています。

夢殿の石段に咲くすみれはまさに「何々すみれ」ではなく、ずばり「すみれ」だと推測しています。

(2) タチツボすみれ

最も普通に見られ、ハート型の葉をもつ上品で美しいすみれです。みずき野では、文化財公園、羽黒神社、山富園の北および東斜面に見られます。多少日陰になる場所が好みようです。

牧野富太郎は、タチツボすみれとよばれているすみれは、万葉時代から平安時代を通じてツボすみれの名でよばれたすみれであるとし、伝統にしたがってツボすみれとよぶべきであると述べています。また、ツボとは坪、すなわち庭のことで、庭先のすみれという意味であると説明しています。しかし、後述するように、ニョイスミレの別名がツボすみれなので、このすみれは、大先生の意に反して、現在もタチツボすみれとよばれています。



タチツボすみれ 文化財公園の階段



タチツボすみれ 山富園北斜面

(3) ノジスミレ



ノジスミレ 第2調整池

ノジスミレは(1)で述べたスミレよりもすこし早い時期に咲きます。3月下旬、第2調整池には、比較的乾いた場所には咲いているのをよく見かけます。スミレに似ているけれども、美しさでは劣るスミレの仲間ですが、スミレの季節が来たことをいち早く知らせてくれるうれしい花です。葉柄にスミレには見られる「ひれ」がほとんどないので、スミレと区別できます。

(4) アリアケスミレ

4月に入るとアリアケスミレが咲き始めます。湿った場所が好きなスミレで、第2調整池の環境がよほど気に入ったのか、ここに最も多く見られます。名前の「アリアケ」は、花の色に白色のものから全体に紫が広がっているものまでいろいろあることから、有明の空の色になぞられて付けられたのだそうです。このいささか大げさな名とは裏腹に、瀟洒な可愛らしい花を咲かせるスミレです。



アリアケスミレ 第2調整池



(5) ニョイスミレ(=ツボスミレ)



第2調整池

ニョイスミレはアリアケスミレに続いて、4月中旬頃から咲き始めます。葉は先の尖ったハート型ですから、同じ場所に生えていても、へら型の葉をもつアリアケスミレとは容易に区別できます。ツボスミレとも言いますが、上に述べたように、牧野富

太郎によれば、ツボスミレはタチツボスミレに付けられた古典的な名です。したがって、このスミレの名とするのは不当であると述べています(「植物記」ちくま学芸文庫版)。ツボスミレの代わりに、牧野はニョイスミレ(如意スミレ)と名付けました。如意とは、背中を搔く「まごの手」を変形したもので、説法するとき僧侶が使う一種の棒です。私も以前、このスミレをツボスミレとよんでいましたが、今は牧野の説に従い、ニョイスミレとよんでいます。ツボスミレを使う方が一般的ですが、ニョイスミレを使う人もかなりおります。

(6) ヴィオラ・ソロリア (Viola sororia)

(=アメリカスミレサイシン)

どこからどのようにして入ってきたのか分かりませんが、ヴィオラ・ソロリアという北米原産のスミレが第2調整池に生えていて、4月中・下旬に花を咲かせます。しかも、原種と思われる紫色の型(パピリオケアナ型)のほか、白花に紫の筋が入るもの(プリケアナ型)および白花のものが見られました。なお、昨年までは、白花に紫の斑点の入るもの(フレクルス型)が咲いていましたが、今年は見つかりませんでした。

紫色の原種は、北米ではコモン・ブルー・ヴァイオレットとよばれ、ウィスコンシン、ニュージャージー、イリノイの3州では州花となっており、北米では賞美される花です。ところが日本では侵入者として在来のスミレとの競合が懸念される傾向があります。しかし、2008年以来このスミレの動向を調べていますが、第2調整池に関するかぎり、それほどはびこっているようには見えませんでした。



パピリオケアナ型 第2調整池



プリケアナ型 第2調整池



白花 第2調整池



フレクルス型 第2調整池

2014年5月
本吉總男

(注)

夢殿

奈良県生駒郡斑鳩(いかるが)町にある法隆寺東院の正堂。天平11年(739)ころ行信の創建になる八角堂で、本尊の救世観音(くせかんのん)立像とともに国宝。

埴土

粘土分を50パーセント以上含む土。排水や通気性が悪く、耕作には適さない。

如意

仏事の法具名。棒状でなだらかに曲がり、先端が広がった形をしたもの。木製のほか象牙製、鯨のひげなど素材はいろいろで、先端の部分だけ金属板で装飾的な雲形に作ったものが多い。また柄の部分に玳瑁(たいまい)ばりや螺鈿(らでん)で加飾した豪華なものもある。元来、如意はいわゆる孫の手のように背中をかいたりする日用品で、初期仏教の時代から僧侶が携帯した。古くは爪杖といわれたが、これを用いれば手の届かぬ背中のかゆい所も意のごとくになるところから名付けられたとされる。

短歌

昭和4年作

童謡法隆寺

白秋童謡読本 巻6 采文閣 昭和6年発行

『夢殿の 石段に、石段に、すみれが咲いてをりました。をりました。
 花の盛りの 法隆寺、法隆寺、霞がかけてをりました。をりました。
 ことり ことりと 誰やらが、誰やらが、陰をあるいてをりました。をりました。
 春の日向の 法隆寺、法隆寺、門が開いてありました。ありました。』